

「子ども」か「子供」か

～ 厚生労働委員会で質問 ～

◆ どうして「子ども」なのか

「大臣、子供の表記は『子ども』と混ぜがきにされることについて、どうお考えですか」

3月10日に行われた厚生労働委員会で、私は川崎二郎厚生労働大臣に「子ども」という表記の問題について質問をしました。三位一体の改革と児童手当の拡充をめぐる法案審議の中で、法案に書かれる言葉遣いについても質問をしたわけです。

子供の表記は、新聞などでは主に「子供」、祝日は「こども」、福祉施設や学校関係では「子ども」と書かれることが多いのが現状です。

「供」という漢字は小学校で習う常用漢字ですが、どうしてわざわざ「子ども」というように不自然な混ぜ書きがされるようになったのでしょうか。

実は「供」は人と共にあるという意味があります。だから、先人は「ばあい」という和語に「場合」という漢字を当てたように、「こども」に「子供」という漢字を当てたわけです。

しかし厚生労働省などに問い合わせてみますと、「供」はお供え物の感じがするとか、従者を連想するから封建時代の差別の感じがするなど理由で、「子ども」という表記が使われるようになったとの回答です。本音では「ども」をひらがなで書かないとクレームがくるから面づくさい、ということのようでした。

そんな根拠のない理由で、無批判、無検証に日本語のルールを変えるのはおかしいと思うのです。特に次代を担う大切な子供の表記なのですから。

◆ 「ら致」と「拉致」

私が新聞記者だった頃、「拉致」は「ら致」と書かれていました。「拉」は常用漢字ではないからです。当時、私はデスクにこの表記を巡って次のように直談判しました。

「別に『拉』は難しい字ではないのだから、書けなくても、ほとんどの人は読めますよ。逆にひらがなを使うと馬鹿にされているような気がします」

幸いその後は、新聞も「拉致」と表記するようになりました。当たり前の見識です。「子供」にも同じことが言えます。習った漢字をひらがなにされる小学生もおそらく同じ違和感を持っているでしょう。



質問前日の夜、厚生労働省の担当者と打ち合わせをする。急な質問だけあって、7人もの役人がやってきた。

＝ 3月9日午後九時、衆議院第一議員会館の自室

◆ 美しい日本語を伝えよう

私は大学生の頃に休学し、オーストラリアの小・中学校で日本文化を教えるボランティアをしていました。そのときに学んだのは、外国人から尊敬されるためには、武道や茶道、音楽、文学に代表される日本文化に通じていることであって、決してペラペラと英語を話すことではないということです。

私は現在、学生ボランティアの皆さんに感謝の意味を込めて作文指導をしています。高い学歴とは裏腹に貧弱な彼らの作文力に愕然としています。そこに我が国の教育の病巣を見る思いです。同時にその影が、キーボードでローマ字を打ちながらこの文章を作成している自分自身にも忍び寄っていることを実感しています。

日本語が疎かにされています。日本人は日本語でものを考えるのだから、これは恐ろしいことです。戦後の復興を支えた日本人は、美しい文字を書き、今よりもっと和歌などの風情を知っていました。国語力が数段高かったのです。

国際化の時代だからこそ、日本語の美しさや細やかさを見直し、守らなければいけません。小学校で英語を教えるよりも、まずは国語を見直すべきです。

松浪健太

動画配信

※今回の質問の動画が衆議院のHPで公開されています
→<http://www.shugiintv.go.jp/jp/index.cfm>

「発言者名」に「松浪健太」を選択して下さい